

# IAEA 主催 Regional (Asian) Workshop on Managing Nuclear Knowledge

日時：2007年10月22日－26日

場所：東京工業大学百周年記念館

(東京都目黒区大岡山 2-12-1 〒152-8550)

ホスト機関：東京工業大学、大阪大学原子炉工学研究所、  
日本原子力研究開発機構、原子力安全基盤機構、日本原子力産業協会

## 「会議の概要」

世界的に広がる熟練技術者や研究者の退職や若者の原子力離れにともない、原子力知識の保持や継承に危機感が生じています。このため、国際原子力機関（IAEA）は2002年の通常総会において、原子力知識管理（NKM）を主要事業に位置づけ、それ以来、原子力エネルギー局を中心にNKM戦略の普及と強化、原子力情報や知識のデータベース化、教育トレーニングの推進などに取り組んでいます。

本IAEAワークショップは、IAEAがNKMの役割や重要性、諸活動に対する理解を高め、アジア地域における協力を促進する目的で、東京工業大学をはじめとした日本のホスト機関の協力を得て、初めて日本で開催するものです。初日（10月22日（月）10:00－17:30）は講演会形式（英語）とし、広く一般に公開することとなりました。

講演会ではIAEAによるさまざまな取組みはもとより、原子力先進諸国が行政、規制、発電、研究開発、教育など多様な分野でいかにNKM戦略を実践し、活用しているか、その現状や展望を紹介します。例えば、米原子力産業界が世代交代にともなう知識喪失のリスクを回避した例、脱原子力に直面するドイツ規制当局がNKMを活用している例、ヨーロッパの大学が国境を越えた原子力教育ネットワークを作り出した例などです。日本からも東工大の教育理念をはじめ、原子力委員会や経済産業省から原子力開発政策や人材養成の観点から見たNKMの役割や期待が発表される予定です。

さらに、本IAEAワークショップは、東京工業大学という教育現場を会場とする点でも初の試みです。この機会に、若手研究者や現役学生が主体となって企画、運営する「学生フォーラム」（10月25日（木）14:00－16:30）も一般に公開されます。実は、NKMには既存の情報や知識を次世代に伝えるだけでなく、そこから新しい価値を生み出し、革新的な事業を創造する使命も含まれています。本「学生フォーラム」は、将来の原子力リーダーたちが考える原子力教育のあり方やキャリア開発、技術の可能性を聞き、ともに語るセッションです。

このほか、本ワークショップではロシア、オブニンスク原子力工科大学と東京工業大学とを結ぶ「TV会議」も企画しています。

なお、初日の講演（22日、参加無料）と懇親会（会費：5,000円）及び学生フォーラム（25日14:00－16:30、参加無料）は一般公開です。当日会場にて、登録を受付けます。お問合せは、東京工業大学原子炉工学研究所 齊藤正樹研究室（saito.masaki@nr.titech.ac.jp）までメールにてご連絡ください。